

文芸きくち

万句の里俳句会 10月句会

陣取りは一番前や運動会
流れ来る水に雲にと秋の声
小鳥きて朝の空気の入れかはる
太刀魚の波を弾ませ釣られけり
新藁の香りにむせぶ野道かな

岩木 敬治
加藤 妙子
松永 久子
中路 郁子
川口 二子

七城短歌会 10月詠草

意のままに槓の枝葉を鉄み揃ゆ苛めにあらざり人賞でもする
やがて刈る黄金色なす稔り田は記録に残る酷暑に耐えきし
猛暑日は散歩も休み籠りいる部屋なるクーラーテレビを友とし
友の死を防災無縁が報ずなり日頃忘れし生の必然
歩みいる我取り困む秋アカネ舗道に薄き影を写しぬ

佐々 重弘
嶋田 晴美
緒方 寛子
緒方 正俊
高木 精

せせらぎ俳句会 10月例会

開拓の名残の畑に栗拾ふ
赤とんぼ追ふ学童の声賑やか
行く秋や形見となりし旅の靴
新米を持ち来る人も代替わり
虫の音も何時しか途絶え秋深む

藤本 邦治
森 正子
五丁 義昭
藤本アツ子
寺本 和子

「里」短歌会 10月詠草

陽の強き道辺の家に干されゐる笹に広がる銀杏白し
棚田には先人達の知恵と汗垂れる稲穂に燃ゆる彼岸花
黄金なるもみどり秘めつつ刈り入れの今を待ちいて戦ぐ菊池野
青空に鞍岳そびえ夫と吾コスモス揺れてともに揺れつつ
あの頃は嫌いしカンナ、ケイトウの赤に顕ちくるつましき昭和

山城 雅子
林 淑子
宮本 淑子
江頭 桂子
前原 ゆみ

旭志文芸教室俳句の会 10月詠草

畦径の秋の七草さがし来し
重陽や娘と食べる栗おこわ
添う夫に贈るカステラ敬老日
虫の音に誘われ一人白露かな
夏草や何年ぶりの藁帽子

芹川のり子
水谷 ミネ
芹川 蓉子
稗田 達恵
中尾ヨシコ

溪流短歌会 11月詠草

雨上がり高き青空眺むれば綿雲のごと浮かぶ半月
久々に大雨降りて満水の竜門ダムに日常保つ
鱗雲畔には赤い彼岸花野の芸術祭か夕焼け屏風
秋風に急かれて立ちし裏畑に大根、青菜の種を蒔きゆく
形見なる友が手植ゑの小菊かも庭のかたえに今年も咲きぬ

岩根 博恵
田中 遙子
堤 よしみ
山城 雅子
山田 弘子

肥後狂句水笑会 10月例会

できそこない 甘酒じゃ無ア酒になり
後期高齢者 前期と分くる事は無ア
さあ大変 何時の間にかやらメタボ腹
秋の夜長 虫もがまだし鳴き通す
さあ大変 家内の名前うち忘れ

井手 水光
宮上 美由
柏原 乗仏
御手洗三代
山隈 好茶

菊池短歌会 11月詠草

ほうきもて払おうとせし蜘蛛の囲にくもは破れをつくろいてをり
動き遅き友をなぐる師思ひ出す老人ホームある秋の午後
志賀直哉島崎藤村再読す二人の運命に悩はうづく
海近き高き架橋に佇めり永遠の父性を恋ほしむ夕べ

安藤 則子
古閑 勝士
中川 愛子
怒留湯健齋

入会希望など詳しくは、
それぞれの句会や歌会
にお尋ねください。

万句の里俳句会
せせらぎ俳句会
旭志文芸教室俳句の会
肥後狂句水笑会

井芹 ☎090(1342)2151
藤本 ☎0968(38)4087
中尾 ☎0968(37)2578
山隈 ☎0968(38)2051

七城短歌会 佐々 ☎0968(24)3761
「里」短歌会 / 溪流短歌会
木原 ☎090(5284)2418
菊池短歌会 安藤 ☎0968(25)4285